

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590900197	
法人名	医療法人 恵愛会	
事業所名	グループホーム誠愛	
所在地	秋田県鹿角市花輪字六月田73番地1	
自己評価作成日	令和4年10月8日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1
訪問調査日	令和4年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2020年4月1日開設で、認知症対応ケアに精通したスタッフが日常ケアは元より、基本理念でもある「その人らしさ」の表出を支援し、入居者様個々の状態に応じたケアの実践に努めております。
特に声掛け、対話を重視し、家庭的な雰囲気からその人らしさを出せる環境作りを行っております。隣接が母体病院であることから、常に安全安心に過ごして頂けます。コロナ禍での閉塞感がある中、窓越し面会も再開され少しづつですが明るくなってきたように思われます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で制限されることが続く中で計画通りに行うことが困難なことも多く、管理者、職員は毎日の業務に忙しさを感じていることと思いますが、利用者がそれぞれのペースで穏やかに過ごすことができるよう日々の支援が行われています。隣接する同法人のグループホームとも協働しながらコロナ禍で途絶えがちな地域との交流に繋げると共に、職員と家族との関係性にも配慮して利用者への支援に繋げていけるよう努力しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は代表者、管理者は職員と共に共有し日々実践に繋げて行くよう努めている。	その人毎の暮らし方や思いを大切にした支援ができることを心にとめ、理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々へ参加をお願いし、ご家族様と共に交流できる機会を持ちたいがコロナ禍にてできていない。	コロナ禍で地域との交流が難しい状況ですが、法人内での協働も図り、感染症の収束を見据えた活発な相互交流が待たれます。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	グループホーム連絡会議の参加や研修も含め、運営推進会議にて認知症の理解を深め参加される地域住民への貢献に努めたいができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご家族様、福祉関係の方、地域住民の方々等に参加した頂きその中で意見をとり入れサービス向上に活かしたいができていない。	運営推進会議がホームへの理解の一助として期待できることから、書面上であっても参加メンバーから意見交換できる工夫をして今後に活かしていきたいと検討しています。	コロナ禍のため、対面会議ができず職員だけの会議となっていますが、資料をメンバーに配布して意見をいただき、記録を残すための工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加された福祉関係の皆様から情報提供して頂く等、協力関係を築いて行けるよう努めたいが、取り組みができていない。	生活保護受給者が入居していないためその担当部署と関わることはありませんが、包括支援センターをはじめとして行政各部署と連携を図るよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会を設け定期的な委員会と研修を行い高齢者虐待防止も含め、管理者、職員間で声を掛け合い身体拘束、虐待防止に努めている。	職員が理解して取り組んでおり、現在その事例はありません。不明な点は確認して対応し、気になる言葉遣いがあった時には注意しています。	玄関ドアを24時間施錠して出入りができない状態となっているため、日中だけでも解錠できる取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会で行っている、日常生活自立支援事業を利用されている方が2名おられますが、管理者、介護支援専門員が協力し対応できるよう支援している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書等を説明し理解の基契約書にて行っている。 不安や疑問には、親身に対応し納得して頂けるよう努めている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様から、意見の出やすい雰囲気を作り面会時や意見箱を設置し要望があれば検討、運営規定を把握しながら反映している。	電話で話を聞くことが多く、意見等が出された時には内容を申し送りし共有し、サービスの向上に活かせるよう努めています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	職員の意見や要望は適時受け入れ、月1回の施設会議にて法人幹部と話し合える場を活用している	管理者はミーティング等で職員の意見や提案の把握に努め、運営に反映できるよう取り組んでいます。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会議に参加し、実践発表や事例検討、意見交換を行いサービス向上や情報収集に努めたいが、コロナ禍にてできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の話や行動に注視し傾聴、受容、共感にて信頼関係を時間をかけ、過去のライフスタイルを把握し安心して生活ができるよう努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの情報、要望、課題を把握し、ホームの規定と合わせて信頼関係づくりに努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出きる事、支援が必要な部分を分析し、家庭的な雰囲気の中での位置確認している。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と連絡を図り、面会時、電話、お便り等を通じてご本人様とご家族様の関係、思いを大切にし、ご本人様を支えていく関係を築いている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	在宅時からの生活環境を把握し、ご家族様、大切な方、馴染みの方々の面会等でもかわりが途切れないように支援している。	外部との接触が制限されていますが、家族とはリモートや電話を通じて大切な関係が途切れないように取り組んでいます。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者様や周囲に配慮し孤立しないように気配りし、入居者様同士の相性等把握し支えあえるよう支援に努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、介護に係る相談等いつでもお受けすることをお知らせし、相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で1人ひとりの生活の思い、希望、意向を十分把握し、その人らしい生活が送れるよう取り組んでいる。	利用者に希望を聞くもありますが、日頃の状態をよく観察して思いの把握に努めています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの活用と聞き取りからの情報を活用し、ご本人様の経験を活かし楽しみのある暮らし方、サービス利用の経過を介護支援専門員と共に生活環境を作り支援している。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	アセスメントから管理者、看護、介護の多職種と連携し状況を把握し、介護計画は現状に合った物を立て状況変化に対応して行きたい。	カンファレンスで利用者の状態を話し合い、計画作成担当が現状に沿った介護計画を作成しています。	日常的な記録様式の活用方法を検討し、モニタリングや介護計画の見直しに繋げる工夫を期待します。
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	個別記録や連絡票の記入にて情報を共有し、ケアの個以上に努め、都度処遇を検討確認し計画の見直しに繋げている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の防災マップを把握し、防災、水害への取り組みはできているが、地域の方々との連携ができていない。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からかかりつけ医、主治医が継続されている。要望があれば医療機関の紹介や相談にも対応している	運営母体が医療機関であることから、入居時に了解を得て変更する方もおります。母体病院が隣接しており、家族にとっては安心に繋がっています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職がいないため、母体の医療機関と連携し、迅速な対応ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との連携を重視し、情報交換や相談につとめている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明で、状態の変化に伴う重度化の場合、ホームでの支援のあり方を説明確認している。重度化時、ご家族様には受診時の同行をして頂き、主治医と今後を話し合う機会を持ってもらい、その結果の意向を検討している	利用者の状態に変化があった場合は、母体病院の医師から家族に説明してもらうことになっています。法人内で状況に応じた連携が図られています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網を作成し備えている。迅速な対応ができるようマニュアルえお作成し、研修などで実践力を身に付ける取り組みをしている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに従い、食料の備蓄はしている。避難訓練、近隣住民との協力体制ができていない	コロナ禍にあるため、地域の協力を得る体制には至ってありませんが、隣接するグループホームとも協議し、今後の対策を検討することにしていきます。非常口にはスロープが設置され、周囲は全て舗装されています。	運営推進会議を活用し、地域の方たちとの協力体制を築く取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、尊厳を傷つけない声掛けをし、プライバシーを確保しながら状況にあった方法で対応している。	本人の意向を大切にし、プライバシーに配慮した対応を心がけています。また、優しい声かけをすることで不安な気持ちにさせないよう努めています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や、入浴時に好みに合わせて選んでいただいている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った料理を取り混ぜながら作成し入居者様と一緒に食器拭き等して頂いている。職員は同席で食事をし、咀嚼、嗜好を確認し、楽しく会話しながら見守りをしている。	利用者と一緒に畑の手入れや野菜を収穫して献立に加え、楽しく食事ができることを考えた支援が行われています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員で献立を作成し、常時試行錯誤し献立変更等臨機応変に対応している。摂取量や状況を記録し職員間で共有している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後個々に合わせた口腔ケアを行い、就寝時には洗浄消毒を行っている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄票を確認しながら声掛け誘導し、プライバシーに配慮しながら支援している。	誘導の必要な方もおりますが、自立している方も多く、それぞれの状態に応じた排泄支援が行われています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適時の補水や食材の工夫にて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴支援をし、ゆっくりと入浴できる雰囲気而努力している。その日の健康状態により清拭対応も行っている。	現在は午前の時間帯に入浴していますが、午後の希望にも応えられるよう、その時々の利用者の要望に応じて支援できるよう取り組んでいます。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを考慮し、落ち着いて休憩できるよう自室、ホールのソファでくつろげるよう配慮している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに処方内容説明書を添付し職員全員で共有し、変更があっても業務日誌等で周知徹底に努めている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の会話等から、楽しみや趣味を聞き、食器拭き、洗濯ものたたみ、新聞紙たたみ、広告でのゴミ箱作り等手伝って頂いたり、好きな歌番組やドラマを観賞して頂いている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節行事でドライブ等計画しているが、コロナ禍にてできないため、散歩や畑作業で外に出ています。	感染防止のためドライブ等の遠出は自粛しており、ほとんど外出できない状況が続いていますが、ホーム周辺を散歩したり、畑作業に出たりして気分転換を図ることができるよう取り組んでいます。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理可能な入居者様がおらず所持はしておりませんが、買い物はご家族様や親戚の方々へお願いしている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームに畑を作り、野菜、花を育て、草取りができる入居者様に手伝って頂いたり、季節に応じた野菜を収穫し一緒に食べ家庭的な雰囲気を心がけ居心地の良く過ごせるよう努めている。	空調、換気に気を配り、家庭的な雰囲気でも過ごしやすい空間になるよう努めています。ユニット間を分けている可動式の壁を開くことでホールが広くなり、催しに活用することができる等、活動の幅が増えることが期待できる造りになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファで1人や気の合う仲間同士の空間を確保し、大型テレビでドラマや懐メロ等鑑賞して頂けるよう努めている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご本人様がご自宅で使用されていた物を持ち込んだり、亡き旦那様やご家族様の写真を置いたり思い出を継続し、安心して過ごせる居室にしている。	洗面台、収納スペースが設置され、すっきりとして清潔感のある居室となっています。布団を利用している方もおり、その人の生活スタイルを尊重した支援が行われています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体にゴチャゴチャと物を置かず安全に移動ができるよう全てに手摺を設置し、居室、トイレ、浴室等わかりやすく掲示し、生活内で混乱が最小限になるよう努めている。		